2026 年 11 月 12 日

各　位

会社名　　株式会社 ELEMENTS
代表者名　　代表取締役社長　長谷川　敬起
（コード番号：5246　東証グロース市場）
問合せ先　　経営企画部長　泉　光一郎
（TEL 03-4530-3002）

国産 AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」のサービス提供開始に関するお知らせ

個人認証 AI ソリューション、領域特化型 AI ソリューションを提供する株式会社 ELEMENTS（本社：東京都中央区、代表取締役社長：長谷川 敬起、以下「当社」）は、国産 AI リーダーボード*1「Kurabe（クラベ）」の無償提供（以下、「本取組」）を 2026 年 11 月 12 日より開始することをお知らせします。

記

1.　本取組について

当社は個人認証事業において、AI モデル学習用データセットの加工ノウハウ、GPU の効率的な利用ノウハウをはじめとして、様々な領域で AI 展開する際に必要な汎用的な技術と知見を蓄積してまいりました。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）が推進する「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」（JPNP25013）に採択された、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）を代表機関とするプロジェクト「多様な AI 半導体の活用と計算資源の高効率化に関する研究開発」*2 に参画機関の一社として参加し、ユースケース単位で性能及びコストの両面から最適なモデルと半導体の組合せを体系的に検証する取組を行っております。

近年、国内企業における生成 AI の業務実装が加速しており、金融・製造領域をはじめとする各産業において、AI 実装に向けた投資が拡大しております。
他方、AI 処理基盤を構成する半導体市場においては供給逼迫が続いており、AI アプリケーションを提供する事業者の調達コスト及び運用コストの上昇要因となる可能性があることから、AI 基盤のコストが国内企業の AI 活用における課題の一つになるものと想定しております。

このような市場環境において当社は、これらの技術と知見を活用し、オンライン本人確認（eKYC）で顧客基盤を築いた金融領域も含め、各領域の企業や組織へ AI Infrastructure サービスを提供する事業展開を成長戦略の一つとして掲げております。なお当社は、本成長戦略が内閣官房より 2026 年 3 月 10 日に公表された「戦略 17 分野における『主要な製品・技術等』」*3 のうち、戦略分野「デジタル・サイバーセキュリティ」の「④クラウド・データセンター」に該当するものと認識しております。

本取組において当社は、業務のタスクごとに利用する AI モデルと実行環境（利用形態や AI 半導体を含む）の組み合わせを、精度・処理速度・推定コストの 3 つの指標で比較、評価結果を無償で取得可能な Web サイトを公開いたします。
今後、各産業における「業務特化ベンチマーク」を拡充していき、それぞれの業種における実業務タスクの評価結果を基に、AI モデルと AI 半導体の組合せを組み込んだ、AI Infrastructure サービスの提供を進めてまいります。実業務のタスクに即した評価結果を前提とする点が従来との違いであり、各業種の AI の業務利活用において、AI 基盤の運用コストの抑制と、パフォーマンス向上の両立を図れる、通常の AI Infrastructure サービスとは一線を画した AI Infrastructure サービスの提供を進めてまいります。

なお、本取組に関する詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

2.　本取組による当社の 2026 年 11 月期の連結業績への影響

本取組による当社の 2026 年 11 月期の連結業績への影響については軽微であります。今後、業績に重大な影響が認められる場合には、速やかにお知らせいたします。

*1　スコアや成果を一覧にして順位を表示するランキング表
*2　参照 URL：https://www.ipri.aist.go.jp/projects/project005/index.html
*3　参照 URL：https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/kaigi/dai3/gijishidai.html

以　上

Press Release
報道関係者各位

2026 年 11 月 12 日
株式会社 ELEMENTS

ELEMENTS、国内業務向け AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」のサービス提供開始
～NEDO が推進する研究開発プロジェクトの実施者として、国内企業のトークン資本経営を支援～

個人認証 AI ソリューション、領域特化型 AI ソリューションを提供する株式会社 ELEMENTS（本社：東京都中央区、代表取締役：長谷川 敬起、以下「ELEMENTS」）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」）が推進する「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」（JPNP25013）に採択された、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下「産総研」）を代表機関とするプロジェクト「多様な AI 半導体の活用と計算資源の高効率化に関する研究開発」の実施者です。
このたび、この研究開発成果の一部である、国内業務向け AI リーダーボード*1「Kurabe（クラベ）」の無償提供を、2026 年 11 月 12 日より開始します。

*1 スコアや成果を一覧にして順位を表示するランキング表

国内業務向け AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」：https://elementsinc.jp/kurabe/
NEDO「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」：
https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP_100172.html
産総研「多様な AI 半導体の活用と計算資源の高効率化に関する研究開発」：
https://www.ipri.aist.go.jp/projects/project005/index.html

■ **要約**
・ELEMENTS は、国内業務向け AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」の提供を 2026 年 11 月 12 日より開始する
・ELEMENTS は、産総研が代表機関を務めるプロジェクト「多様な AI 半導体の活用と計算資源の高効率化に関する研究開発」（JPNP25013）の実施者である
・「Kurabe（クラベ）」は、ELEMENTS グループのノウハウを活用し、個社の業務に適した AI モデルと実行環境の選定を支援するため、国内企業に対し無償で公開する Web サイトである
・企業の業務タスクごとに最適な AI モデルと実行環境（商用 API や IaaS など）の組み合わせを、精度・処理速度・推定コストの観点から比較・評価できる
・日本語および国内の業務ユースケースを前提にデータセットや評価方法が設計されており、特定の環境に偏らない公平な指標を提供する

・今後は金融や製造分野などの業務特化ベンチマークを順次拡充し、技術の進化や利用規模の変化にあわせてAIモデルを継続的に選び直せる基盤を目指す

■ **背景**

ELEMENTSグループは10年以上にわたり、オンライン本人確認サービス「LIQUID eKYC（リキッドイーケーワイシー）」をはじめとする個人情報を扱うクラウドサービスにおいて、独自の大規模学習・高速推論の基盤を構築してきました。この知見と、これまでに最も堅牢さが要求される金融機関をはじめとする、700社以上にサービスを提供してきたセキュリティ基盤の運用に関するノウハウがあります。
現在ELEMENTS社は、個人認証事業で得たAIのデータ加工、学習、評価、GPU利用効率化の汎用的なノウハウを活かし、AIモデルの評価、領域特化型（バーティカル）AI事業に取り組んでいます。

総務省の「情報通信白書 令和7年版」*2によると、日本のAIシステム市場規模（支出額）は、2024年に1兆3,412億円（前年比56.5%増）となっており、今後も成長を続け、2029年には4兆1,873億円まで拡大すると予測されています。
2026年7月発表の独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「DX動向2026」*3では、AIを導入した企業のうち「一定の効果はあった」を含めて「効果があった」と回答した企業は82.4%に上りました。しかし、「期待どおりの効果であった」または「期待以上の効果があった」と回答した企業は、合計で31.8%にとどまっています。
AIを導入することと、自社の業務に適したAIモデルと実行環境を選び、導入にかかる手間と利用コストに見合った「期待どおり」または「期待以上」の効果を引き出すことは、別の課題になりつつあります。
また、昨今、企業成長のカギは人とAIの相互作用から組織が学び続け、企業の暗黙知をAIが使えるようにする仕組み作りにあるとされる「トークン資本経営」が話題となっています。
その一方で、AI基盤の運用コストは、すでに国内企業のAI活用における課題のひとつとなっています。

NEDOが推進する「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」に採択された、産総研を代表機関とする研究プロジェクト「多様なAI半導体の活用と計算資源の高効率化に関する研究開発」は、国内企業8社*4から成る実施者と行われています。
ELEMENTSは複数の研究開発が行われているこのプロジェクトにおいて、2025年10月より5年の予定で「多様かつ最新のAI半導体の特性・優位性を明らかにするテストベッド構築と公平なAIベンチマークセット*5の開発」を担っています。

このたびリリースする国内業務向けAIリーダーボード「Kurabe（クラベ）」は、ELEMENTSグループのノウハウを活用した研究開発成果の一部として、個社の業務に適したAIモデルと実行環境の選定を支援するため、国内企業に対し無償で公開するものです。

*2　総務省 情報通信白書 令和7年版
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd219100.html
*3　独立行政法人情報処理推進機構（IPA）プレス発表「国内企業のDX動向・AI活用動向のポイントを公表」（2026/07/16）https://www.ipa.go.jp/pressrelease/2026/press20260716.html
*4　実施者：国立研究開発法人産業技術総合研究所、1FINITY株式会社、株式会社AI福島、株式会社ELEMENTS、富士通株式会社、株式会社テプコシステムズ、株式会社RUTILEA、株式会社ゼウレカ（Web掲載順）https://www.ipri.aist.go.jp/projects/index.html
*5　AIの性能を客観的かつ公平に評価するための、標準化されたデータやプログラムの集まり

■ **国内業務向けAIリーダーボード「Kurabe（クラベ）」について**

「Kurabe（クラベ）」は、業務のタスクごとに利用するAIモデルと実行環境の組み合わせを、精度・処理速

度・推定コストの 3 つの指標で比較、評価結果が取得できる Web サイトです。OpenAI や Anthropic、Google などが提供する独自 AI モデル、公開された AI モデルをクラウド上で利用する MaaS*6、自社環境で稼働させるセルフホストを横断して比較でき、セルフホストでは GPU など AI 半導体の違いも評価対象としています。
総合的なプロダクトの性能を順位付けするものではなく、個社の業務で利用する AI モデルと実行環境の候補を絞り込むための情報を提供します。企業が自分たちの仕事に合う AI を選び、使い分け、くらべ直しながら使いこなせる状態を目指します。評価結果は、登録不要・無償で閲覧できます。

※「Kurabe（クラベ）」の評価結果は、導入候補を絞り込むための指標のひとつです。企業の検証を代替するものではありません。実際の導入時には、企業固有のデータ、セキュリティ要件、運用条件に基づく検証が別途必要です。

*6 Model as a Service　AI・機械学習のモデルをクラウド上でホストし、API などを通じ必要なときにいつでも利用できるように提供するビジネスモデル

【「Kurabe（クラベ）」の特徴】

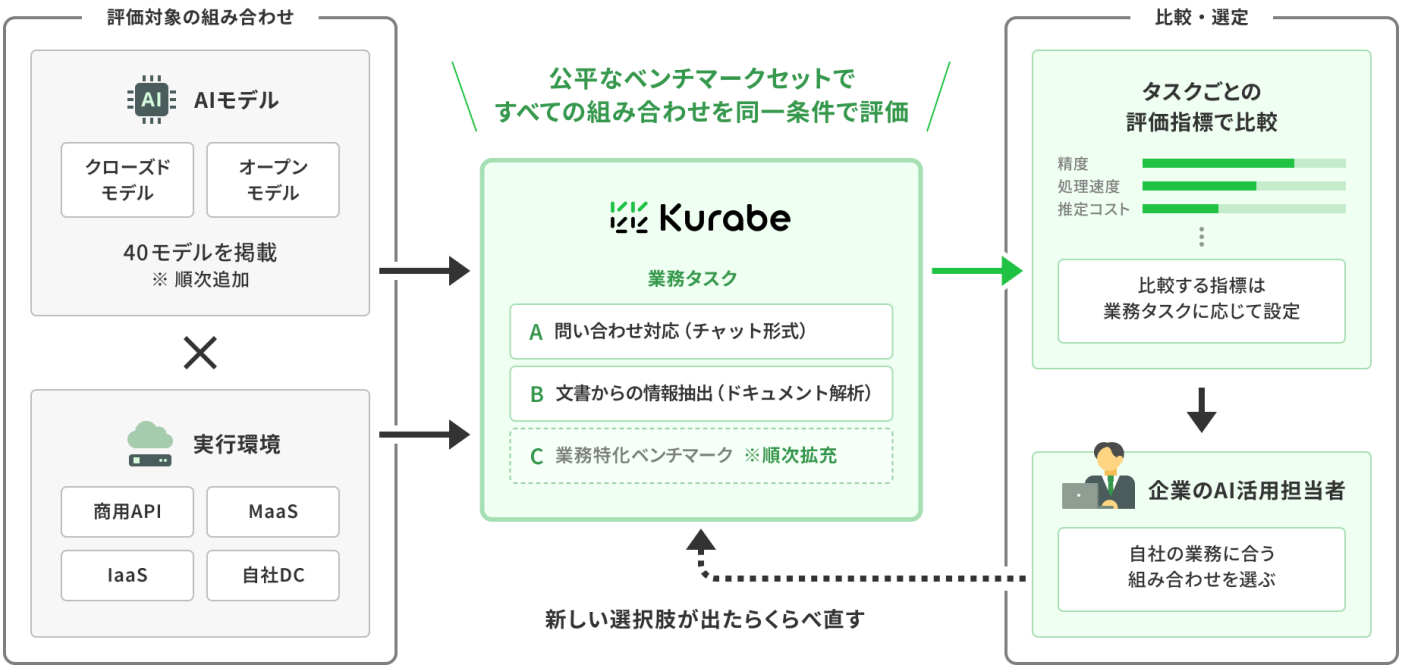
業務のタスクごとの評価が可能
業務のタスクごとに、AI に求められる性能や評価指標は異なります。「Kurabe（クラベ）」は実際の業務のタスクを単位とする評価が可能。併せて「Kurabe（クラベ）」に設定された、「タスクのベンチマーク」も同時に表示、ユーザーの客観的な判断を支援します。

AI モデルと実行環境の組み合わせで比較
AI のコストや処理速度は、モデルだけでなく利用方法や実行環境によっても変わります。「Kurabe（クラベ）」では、モデル単体ではなく、利用形態や AI 半導体を含む実行環境との組み合わせで比較します。

日本語および国内の業務を前提とした評価設計
日本語のドキュメント形式と国内企業におけるユースケース*7 を前提に、データセット*8 と評価方法を設計しています。データセットと評価手順は、特定の AI モデルや実行環境に有利にならないよう、すべての比較対象へ同一の条件で適用します。各業務のタスクのデータセットをどのような考え方で作成しているかは、「Kurabe（クラベ）」のユースケース概要で公開します。

「Kurabe（クラベ）」は業種を問わず利用できます。公開時点では、問い合わせ対応（チャット形式）などの業務と、文書から情報を抽出するドキュメント解析業務の 2 種類に対応します。いずれも、業種を問わず多くの企業に共通する汎用的な業務です。
今後は、金融分野（貸金業務における情報抽出）と製造分野（設計レビュー観点の抽出）の「業務特化ベンチマーク」をはじめ、対応するユースケースを順次拡充します。

【評価対象件数】
2 ユースケース / 40 モデル / 7AI 半導体　（2026 年 10 月現在、順次拡大予定）



*7　システムを使って目的に到達するまでの、具体的な利用シーンや一連の流れ
*8　特定の目的のために収集・整理されたデータの集合体。AI の機械学習や統計分析において、モデルの学習や評価に直接使用される情報のまとまりを指す

■ 今後の展開
金融・製造分野をはじめとした、さまざまな業種における「業務特化ベンチマーク」を順次拡充します。新たな AI モデルや実行環境も評価対象に加え、評価結果を「Kurabe（クラベ）」上で更新します。
企業が一度 AI モデルを選んで終わるのではなく、技術の進化や利用規模の変化にあわせて、業務ごとに適した AI を、継続的に選び直せる基盤を目指します。

■ イベント開催のお知らせ
国内業務向け AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」に関するプロダクト説明会を開催します。

【開催概要】
・タイトル：多様化する AI 半導体と生成 AI の選び方～200 を超える評価結果から読み解く、業務ごとのＡＩモデルと実行環境～
・日時：2026 年 12 月 1 日（火）13:00～15:00
・開催方法：オンライン開催
・参加費：無料
・主催：株式会社 ELEMENTS
・後援：一般社団法人 日本経済団体連合会
・内容：生成 AI の業務活用が進むなか、利用コストに見合った成果をどう引き出すかが企業の課題となっています。本セミナーでは、はじめに国立研究開発法人産業技術総合研究所より、多様な AI 半導体の活用と計算資源の高効率化に国として取り組む背景と NEDO「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」における研究開発の全体像をご講演いただきます。続いて弊社より、その研究開発成果の一部として 11 月 12 日より無償で公開する国内業務向け AI リーダーボード「Kurabe（クラベ）」を用いて、業務ごとに AI モデルと実行環境を精度・処理速度・推定コストの観点から比較し、選ぶ考え方を実演します。本セミナーは特定製品の販売を目的としない情報提供の場として実施いたします。

・申し込み URL：https://lp.elementsinc.jp/kurabe-event-20261201

■ **参考情報**

本件とは別に、ELEMENTS は、NEDO の「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／データエコシステムの構築等に関する研究開発（GENIAC）」にも単独の実施事業者として採択されています。

参考リリース：経済産業省および国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「データエコシステムの構築等に関する研究開発（GENIAC）」に ELEMENTS が採択（2026/07/06）
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000149.000061051.html

■ **ハイパフォーマンスな AI 開発のための GPU クラウド「ELEMENTS CLOUD」について**

ELEMENTS グループが 10 年以上の AI サービス開発・提供で培ってきたセキュリティ・大規模学習・高速推論環境を構築するためのソフトウェア群によるクラウド環境構築及びデータセンター運営を行うサービスです。

■ **株式会社 ELEMENTS について**

「BEYOND SCIENCE FICTION」をグループミッションに掲げ、個人認証 AI ソリューション、領域特化型 AI ソリューションを展開しています。金融犯罪や大量生産・大量廃棄などがもたらす社会課題の解決を目指しています。現在の主力サービスであるオンライン本人確認サービスは、金融や通信など幅広い業界で 約 700 社に導入されています。

所在地：東京都中央区日本橋本町 3-9-4 日本橋ライフサイエンスビルディング 6
代表者：代表取締役社長 長谷川 敬起
証券コード：東証グロース市場 5246
設立：2013 年 12 月
事業内容：生体認証・画像解析・機械学習技術を活用した個人認証ソリューション、衣食住における個人最適化ソリューション、個人情報を管理するクラウドサービスの開発・提供
Web サイト： https://elementsinc.jp/

※本プレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
ELEMENTS グループ 広報（株式会社 Liquid）
E-mail：pr@elementsinc.jp